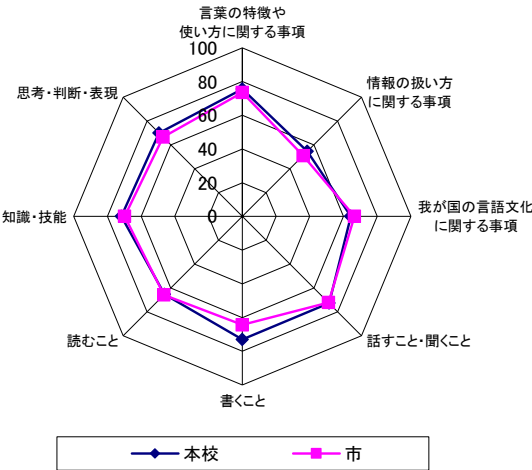


宇都宮市立雀宮中央小学校 第6学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	言葉の特徴や使い方に関する事項	75.5	73.5	74.4
	情報の扱い方に関する事項	54.6	51.0	51.5
	我が国の言語文化に関する事項	64.4	66.5	68.8
	話すこと・聞くこと	72.8	72.3	73.7
	書くこと	73.0	64.3	66.6
	読むこと	65.3	65.8	64.9
観点別	知識・技能	71.8	69.8	70.8
	思考・判断・表現	69.9	66.5	67.3

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

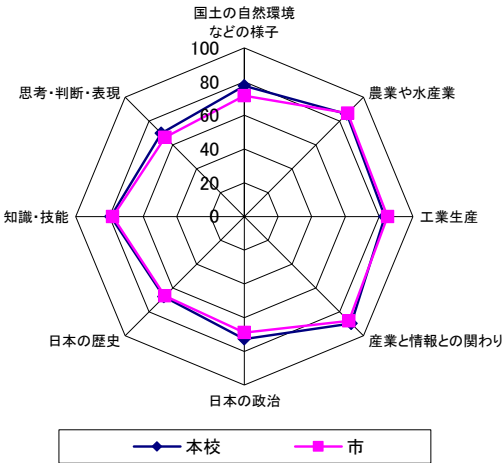
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方に関する事項	・領域の正答率は75.5%で、市と同程度である。 ○三字の熟語の成り立ちについて理解しているかを問う問題では、正答率が77.0%で、市を8.4ポイント上回った。 ●敬語について理解し、正しく使えるかを問う問題では、正答率が12.6%と、市を9.6ポイント下回った。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・授業の中だけでなく日常生活の中で、相手や場面に応じて適切に敬語を使用するように指導し、敬語に慣れさせていく。
情報の扱い方に関する事項	・領域の正答率は54.6%で、市と同程度である。 ○情報と情報の関係について理解し、目的に応じて文章を簡単に書く問題では、正答率が57.5%で、市を6.2ポイント上回った。	・「文章中の言葉を使って」や「○字以上、○字以内」など、条件にあった内容で表現させることで、情報の中からキーワードを見つけたり整理したりする力を身に付けさせていく。
我が国の言語文化に関する事項	・領域の正答率は64.4%で、市と同程度である。 ●和語、漢語、外来語について理解しているかを問う問題では、正答率が64.4%と、市と同程度である。	・和語、漢語、外来語の由来に関心がもてるよう、それぞれの言葉の特徴と意味を理解させ、語彙を増やしていけるようにする。
話すこと・聞くこと	・領域の正答率は72.8%で、市と同程度である。 ○インタビューの内容を聞き取り、意図に応じた質問の工夫を問う問題では、正答率が81.6%と、市を4.6ポイント上回った。	・国語や学級活動での話し合い活動、総合や委員会活動のインタビュー活動を通して、自分が聞こうとする意図や相手に応じて、話の内容を的確に捉える力を身に付けさせていく。
書くこと	・領域の正答率は73.0%で、市より8.7ポイント高い。 ○指定された長さや段落で文章を書く問題では、正答率が市よりも16～17ポイント上回った。	・文章を書く際に、目的や意図に応じて書くようにさせ、自分の考えの根拠となる事例を挙げさせるなどの手立てを講ずる。その際、段落や文字数を指定するなどして、条件に合った文章を書く学習の機会を増やし、力を伸ばしていく。
読むこと	・領域の正答率は65.3%で、市と同程度である。 ○物語の内容を読み取る問題では、どの問題も正答率が市と同程度であった。 ●説明文の叙述を基に文章の内容を捉えているかを問う問題では、正答率が52.9%で、市を6.7ポイント下回った。	・説明文において、文章全体の構成を捉え、序論や本論がどのように結論に関わってくるかを意識させながら読ませる。それらが、筆者の伝えたいことに結び付けられるようにしながら読む力を育てていく。 ・朝の学習や家庭学習などで長文読解に取り組む機会を設けて、読み取りへの抵抗をなくしていく。

宇都宮市立雀宮中央小学校 第6学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	国土の自然環境などの様子	77.5	71.6	69.6
	農業や水産業	86.0	86.7	83.7
	工業生産	83.3	85.0	79.5
	産業と情報との関わり	89.8	87.7	77.4
	日本の政治	72.7	68.9	71.7
	日本の歴史	67.3	66.7	66.3
観点別	知識・技能	79.2	78.0	76.7
	思考・判断・表現	69.7	66.4	63.1

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

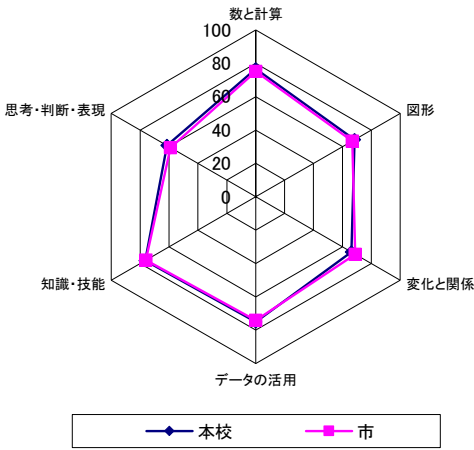
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
国土の自然環境などの様子	・領域の正答率は77.5%で、市より5.9ポイント高い。 ○日本の周辺の海洋名を答える問題の正答率は、市より5.9ポイント上回った。 ○日本の主な地形(湖)の名称を答える問題の正答率は、市より6.7ポイント上回った。 ●地図と国旗と説明文からオーストラリアの位置と国旗を答える問題の正答率は、市より3.8ポイント下回った。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・日常的に地図帳を活用し、方位や国旗、国内外の海洋や山地や河川などの名称を正しく覚えられるようにする。 ・社会の授業だけではなく、道徳や外国語の授業やニュースで取り上げられた外国に関わる情報を話題にして、繰り返し知識が定着するような場を設定する。
農業や水産業	・領域の正答率は86.0%で、市と同程度である。 ○水産物の流通の工夫について資料をもとに判断する問題の正答率は、市より2.7ポイント上回った。 ●米の生産工程を当てはめる問題の正答率は、市より3.2ポイント下回り、米の生産が盛んな地域についての理解をもとに資料を判断する問題の正答率は市より1.9ポイント下回り、課題が見られた。	・米の生産工程の時期と順番と作業名が正しく理解できるように、米作りカレンダーを自分でまとめたり、学習田での体験を結び付けたりできるようにする。 ・農作物の産地に関して、なぜその都道府県で多く生産されているか、気候や地形の特徴をとらえて理解できるように調べたり確認したりする場を設ける。
工業生産	・領域の正答率は83.3%で、市より1.7ポイント低い。 ○工場製品を分類する問題の正答率は、市より3.3ポイント上回った。 ●自動車の製造工程について理解する問題では、市より6.3ポイント下回る正答率であった。また、日本の工業の特徴について複数の資料から説明する問題では、71.6%で市より1.8ポイント下回る正答率であった。	・自動車産業の内容について、製造工程について順番と作業の工夫を自分で図にまとめたり、分かりやすく説明したりして知識の定着を図る。 ・複数の資料を読み取る機会を設け、輸出入の特徴を自分の言葉でまとめることで資料の見方に慣れるようにする。 ・記述式の問題に対して苦手意識をもたないように、普段の授業で書いて説明したり、練習問題を解いたりして定着を図る。
産業と情報との関わり	・領域の正答率は89.8%で、市より2.1ポイント高い。 ○メディアの特徴を問う問題では、95.5%と高い定着度がある。 ○情報の発信と受信の注意点について考える問題では、市より5ポイント上回る正答率であった。	・メディアの特徴を表にまとめ、それぞれの利点が正しく理解できるようにする。 ・情報モラルに関わることは、社会科だけでなく、道徳や学級活動などで折に触れて学習し、情報の発信と受信の注意点について実体験をもとに考えさせる。
日本の政治	・領域の正答率は72.7%で、市より3.8ポイント高い。 ○国民と国会と内閣の関係についての理解をもとに図を読み取る問題の正答率は市より6ポイント上回り、内閣の働きを答える問題の正答率は市より13.3ポイントも上回った。 ●国民の休日の表から天皇の地位や国民の義務について考える問題では課題が見られた。	・政治と国民生活の関連をまとめた図を使って特徴を選んだり、その根拠を示したりする場を確保し、資料に着目して考える力を高める。 ・提示された資料から必要な情報を取り出して正しい答えを導き出せるように、用語の意味を正しく理解し、普段の授業で複数の資料をから取捨選択をして説明する場を設ける。 ・政治に興味をもてるように、授業で模擬選挙を行ったり、ニュースの話題を取り上げたりする。
日本の歴史	・領域の正答率は67.3%で、市と同程度である。 ●様々な資料から時代ごとの文化的特徴を考えたり、歴史上の主な政策の意図を考えたりする問題に対して課題が見られた。特に元との戦いの理解をもとに防塁について説明する問題は、市より6.7ポイント上回ったが、35.2%と低い正答率であった。	・複数の資料を関連させて、共通点や特徴を選んだり、その根拠を説明したりする場を確保し、資料に着目して考える力を充実させる。 ・各時代の文化の特徴や主要な人物の功績について習熟できるように、練習問題に取り組んだり、自主学習で復習したりさせる。

宇都宮市立雀宮中央小学校 第6学年【算数】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と計算	76.7	75.1	75.8
	図形	68.4	66.8	68.3
	変化と関係	66.3	68.8	65.0
	データの活用	75.0	74.1	63.6
観点別	知識・技能	76.5	76.1	75.8
	思考・判断・表現	61.5	59.0	51.7

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

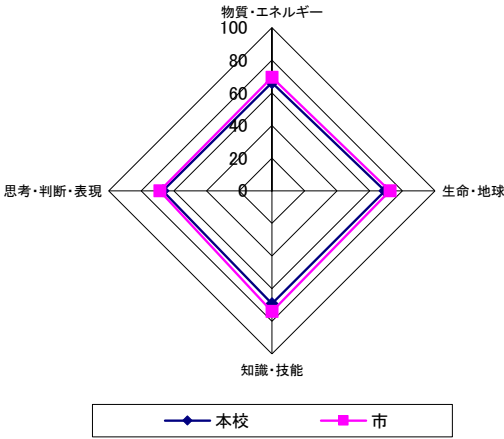
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	・領域の正答率は76.7%で、市と同程度である。 ○図を見て、小数倍の文章問題(何倍かを求める)を解くために除法の立式をする問題では、正答率が市を11.4ポイント上回った。 ●分数×分数(約分あり)の問題では、正答率が市を6.7ポイント下回った。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・基本的な計算の技能の定着を図るために、計算の仕方、意味について再確認しながら、計算ドリル等で習熟を図っていく。 ・計算に関して成り立つ性質に着目し、筋道を立てて計算の仕方を考える過程を重視し、分数の乗法や除法についての理解を深める。
図形	・領域の正答率は68.4%で、市と同程度である。 ○高さが図形の外にある三角形の底辺と高さを読み取り、面積を求める式を選択する問題では、正答率は低いものの、市を9.8ポイント上回った。 ●正六角形の作図方法から、円の中心の回りにできる画の大きさを求める問題では、正答率が市を5.1ポイント下回った。 ●既習の図形から線対称でも点対称でもある図形を選ぶ問題では、正答率は35.6%で市と同程度であるが、全ての問題の中で最も正答率が低く、課題がある。	・正多角形について、円と組み合わせで作図をする活動を通して、正多角形の性質を円の性質と関連付けて理解できるようにする。 ・実際に紙を折ったり回したりして確かめる活動や、方眼紙や白紙に作図することを通して、線対称や点対称の定義や性質について実感に伴った理解をさせる。
変化と関係	・領域の正答率は66.3%で、市と同程度である。 ○表から面積と数の割合を求め、混み具合を考察する問題の正答率は、市と同程度であった。 ●速さと道のりから時間を求める問題では、正答率が市を5.8ポイント下回った。	・速さについては、数直線を活用しながら、道のり・速さ・時間の3つの数量の関係が変わらないことをおさえる。さらに、速さが一定であることを基に時間や道のりを求める問題に多く取り組ませ、理解を深めさせる。
データの活用	・領域の正答率は75.0%で、市と同程度である。 ○ドットプロットのデータを度数分布表に表す問題では、正答率が市を4.9ポイント上回った。 ●4日間に走った道のりの平均から、2週間に走ると考えられる道のりを求める記述問題では、市と同程度であるものの、正答率が44.8%であり、データの活用領域内で最も低い正答率だった。	・平均の意味について再確認させ、ある部分について求めた平均の量を生かして、全体の量を求めることができることを理解させる。また、生活場面の中から、類似の問題に多く取り組ませる。 ・既習事項を活用しながら根拠を明らかにして筋道立てて説明する活動を多く取り入れたり、記述式の問題に触れる機会を増やしたりして、思考力・判断力・表現力を伸ばしていく。

宇都宮市立雀宮中央小学校 第6学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	物質・エネルギー	66.3	69.5	65.2
	生命・地球	69.3	72.3	70.1
観点別	知識・技能	69.2	74.0	70.7
	思考・判断・表現	66.9	68.7	65.5

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	・領域の正答率は、66.3%であり、市の平均を3.2ポイント下回った。 ○実験の結果から電磁石の強さが大きくなる理由を問う設問では、市の平均を6.2ポイント上回った。 ○二酸化炭素と窒素を区別する方法を指摘する指摘する設問では、市の平均と同等であった。 ●水に溶けた食塩とミョウバンを取り出す方法について指摘する設問では、市の平均を8.8ポイント下回った。 ●酸素の働きについての設問では、市の平均を8.2ポイント下回った。 ●水溶液を熱すると固体が残ることから、どの水溶液であるかを推測する設問では、市の平均を8.3ポイント下回った。	・実験時のグループの人数を可能な限り少なくしたり、確実に全員が実験を行えるよう配慮したりすることで、技能の習得と体験に基づいた知識の定着を図る。 ・プリントやAIDリル等を使った復習の機会を引き続き取り入れ、基礎的な知識の定着を図る。
生命・地球	・領域の正答率は、69.3%であり、市の平均を3ポイント下回った。 ○農家がテントウムシを畑に放す理由を食物連鎖をもとに推測する設問では、市の平均を6.2ポイント上回った。 ●しん食や臓器についてのはたらきを問う設問では、市の平均を10ポイント以上下回った。 ●実験から和歌がよまれたときの月の形を推測する設問では、市の平均を11.2ポイント下回った。	・全員が観察や体験を行い、日常生活と結び付けながら知識の定着を図る。 ・日常生活ではあまり用いない専門的な用語や実験に関する数値などについて、授業の導入で確認したり、プリントやAIDリル等で繰り返し復習したりして、着実な定着を図る。

宇都宮市立雀宮中央小学校 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
児童の思考を可視化し、論理的思考力や表現力を育むための一人一台端末の活用の工夫	調べる、まとめる、伝える学習や学習内容の習熟における活用	国語の「書くこと」の領域と「情報の扱い方に関する事項」に関して、領域の正答率は市よりも高い。 アンケートの調査結果から、6年生の「パソコンを使って、相手に分かりやすく自分の考えや調べたことを伝えることができる」の設問の肯定割合は、9割以上でとても高い。

★国・県・市の結果を踏まえての次年度の方向性

一人一台端末を効果的に使っていくことを通して、表現力の育成を図る。様々な教科の学習の中で、ゴールまでの見通しをもたせ、情報を調べて分かったことを一人一台端末を活用してまとめる活動を計画的に取り入れる。また、授業中、一人一台端末を活用して学習の振り返りをまとめたものを話し合う活動を意図的に位置付け、自分の考えを級友と共有しながら学習の自己調整ができるようにする。